

さっぽろヒグマ基本計画 2023

【パブリックコメント・キッズコメント意見集】

令和5年（2023年）4月

札幌市

【市政等資料番号】

01-J02-23-929

目次

1	意見募集の概要.....	1
2	意見の内訳.....	2
3	意見を踏まえた当初案からの修正点.....	4
4	パブリックコメントの概要と それに対する札幌市の考え方.....	5
5	キッズコメント（小・中学生の意見）の概要と それに対する札幌市の考え方.....	22

1 意見募集の概要

(1) 意見募集の趣旨

札幌市では近年、市街地やその周辺でのヒグマ出没が増えてきています。背景には、ヒグマの個体数の増加のほか、ヒグマの生息地である森林と市街地が接している地域特性などが考えられています。そして今後、人とヒグマの距離はますます近くなっていくことが懸念されます。

そこでこのたび、市民の皆さまの安全・安心を確保するため、そして人とヒグマの共生を目指すための「さっぽろヒグマ基本計画 2023（案）」に対する意見募集を実施しました。

また、「さっぽろヒグマ基本計画 2023（案）」については、長期的な視点に立って取組を推進していく必要があることから、小・中学生向けの資料を作成し、キッズコメントとしての意見募集も行いました。

(2) 意見募集期間

令和5年（2023年）2月15日（水）～ 令和5年（2023年）3月17日（金）

(3) 意見提出方法

郵送、持参、FAX、電子メール及びホームページの意見募集フォーム

(4) 基本計画（案）の配布・閲覧場所

場所	本書	概要版
市役所本庁舎 12 階 環境局環境共生担当課	●	●
市役所本庁舎 2 階 市政刊行物コーナー	●	●
各区役所 総務企画課広聴係		●
各まちづくりセンター		●
ふれあいパンフレットコーナー (地下鉄大通駅定期券発売所並び)		●
札幌駅前通地下歩行空間 北 3 条交差点広場(東)		●
その他市有施設 (環境プラザ、円山動物園など)		●

※ その他、市立小学校・中学校・高等学校、特別支援学校、各児童会館などに配布

2 意見の内訳

(1) 提出者の年代別内訳

●パブリックコメント（大人の意見）

年代	10歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	合計
人数	0	1	0	5	9	2	1	4	22
件数	0	9	0	12	29	7	3	16	76

●キッズコメント（小・中学生の意見）

分類	小1~3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
人数	2	0	1	2	3	1	0	9
件数	2	0	9	2	3	1	0	17

(2) 提出方法別内訳

●パブリックコメント（大人の意見）

提出方法	郵送	持参	FAX	電子メール	ホームページ	合計
提出者数	0	0	1	4	17	22

●キッズコメント（小・中学生の意見）

提出方法	郵送	持参	FAX	電子メール	ホームページ	合計
提出者数	5	0	1	2	1	9

(3) 提出者の居住区別内訳

●パブリックコメント（大人の意見）

区	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	その他	合計
人数	1	2	1	0	2	3	1	3	2	1	6	22

(4) 意見内容の内訳

分類	パブリックコメント		キッズコメント	
	件数	構成比	件数	構成比
全体について	17	22.4%	3	17.6%
第1章 計画の策定にあたって	7	9.2%	0	0.0%
1 計画策定の背景	2	2.6%	0	0.0%
2 さっぽろヒグマ基本計画	0	0.0%	0	0.0%
3 計画の位置づけと対象	5	6.6%	0	0.0%
第2章 ヒグマに関する現状と課題	3	3.9%	0	0.0%
1 札幌市内のヒグマ出没状況	1	1.3%	0	0.0%
2 これまでの主な取組	1	1.3%	0	0.0%
3 市民のヒグマに対する意識	0	0.0%	0	0.0%
4 札幌市が抱えるヒグマ対策の課題	1	1.3%	0	0.0%
第3章 計画の目指す姿（ビジョン）	0	0.0%	0	0.0%
第4章 ゾーニング管理	10	13.2%	0	0.0%
1 ゾーニング管理とは	1	1.3%	0	0.0%
2 これまでのゾーニング管理と課題	0	0.0%	0	0.0%
3 新たなゾーニングの設定	9	11.8%	0	0.0%
第5章 基本目標と施策の方向性	21	27.6%	14	82.4%
【基本目標1】人の生活圏へのヒグマ侵入抑制策を推進します。	10	13.2%	12	70.6%
【基本目標2】市民の安全を第一に迅速かつ適切なヒグマ出没対応を行います。	5	6.6%	1	5.9%
【基本目標3】ヒグマについて考え行動する市民の意識を醸成します。	6	7.9%	1	5.9%
第6章 計画全体に係る施策	9	11.8%	0	0.0%
1 モニタリングの実施	5	6.6%	0	0.0%
2 ヒグマ対策重点エリアの設定	1	1.3%	0	0.0%
3 近隣自治体との連携強化	3	3.9%	0	0.0%
第7章 計画の推進にあたって	3	3.9%	0	0.0%
1 各主体に求められる行動	3	3.9%	0	0.0%
2 進行管理等	0	0.0%	0	0.0%
3 計画の体系	0	0.0%	0	0.0%
4 取組の想定スケジュール	0	0.0%	0	0.0%
参考資料	2	2.6%	0	0.0%
その他	4	5.4%	0	0.0%
合計	76	-	17	-

※ 構成比の値は、四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならない場合があります。

3 意見を踏まえた当初案からの変更点

皆さまからいただいたご意見を踏まえ、当初案から3か所の修正等を行いました。

また、下表には掲載していませんが、軽微な文言等の修正に関するご意見についても別途計画に反映しています。

No.	修正箇所	意見の概要	市の考え方
		修正点	
1	第1章 1(2) 意見募集資料 p.5 計画本書 p.4	○「地形」は一般に地表面の起伏のことであるため、文言を修正すべき。	●ご意見を踏まえ、修正します。
		<p>【修正前】 その結果、手稲区、西区、中央区、南区、豊平区及び清田区にかけて、<u>森林の間近まで市街地・住宅地が広がる、札幌市独特な地形が形成されていきました(図3)。</u></p> <p>【修正後】 その結果、<u>札幌市では、手稲区、西区、中央区、南区、豊平区及び清田区にかけて、森林と市街地・住宅地が接するようになりました(図3)。</u></p>	
2	第2章 4(コラム) 意見募集資料 p.29 計画本書 p.25	○餌やり行為による影響の一つとして、野生動物だけではなく、ペットや家畜との感染症感染の相互リスクが増大する旨を追加すべき。	●ご意見を踏まえ、ペットや家畜との感染症感染に関する記載を追加します。
		<p>【修正前】 <u>野生動物と人との距離が近くなり～</u></p> <p>【修正後】 <u>野生動物と人・ペット等との距離が近くなるだけでなく～</u></p>	
3	第5章 基本目標3 意見募集資料 p.51 計画本書 p.42,43	○市民とは視点が異なるため、観光客や観光事業者の対応についても別途記載すべき。	●ご意見を踏まえ、観光客や観光事業者への対応に関する記載を追加します。
		<p>【修正前】 市民</p> <p>【修正後】 <u>市民や、札幌市への来訪者等</u></p>	

4 パブリックコメントの概要と それに対する札幌市の考え方

3に掲載した以外にいただいたご意見の概要と、札幌市の考え方をお示しいたします。これらのご意見については、今後のヒグマ対策に関する施策及び取組の検討・実施にあたり参考とさせていただきます。

なお、趣旨が同様のご意見については、集約したうえで掲載しています。

また、ご意見によっては、複数の章に関連があるものもありますが、最も関連していると考えられる章、又は計画全体への意見として掲載しています。

【計画全体】

No.	意見の概要	市の考え方
1	<p>○本計画の内容は、札幌市の行政内部にしっかり蓄積されていくことが大切であり、そのためには、専門部署や専門官の配置が必要であると感じた。</p> <p>[類似意見：6件]</p>	<p>●札幌市では、熊対策調整担当係の職員がヒグマ対策を担当しているほか、ヒグマ出没時の現地調査や捕獲対応の業務を野生動物専門の事業者及び猟友会に委託し、連携しながら対応しています。また、第7章で示すとおり、北海道や警察などの関係機関とも、平時から緊急時に備えた連絡体制の整備や連携強化に努めています。計画策定後も引き続き、これら関係機関等と連携したうえで出没対応訓練等を実施しながら、さまざまな状況に対応できるよう備えていきます。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
2	<p>○本当に危ないヒグマは試験的な駆除も検討すべきではないか。また、森に近い場所に住んでいる住民に対し、駆除の賛否についてアンケートをとってみてはどうか。</p>	<p>●札幌市では、出没したヒグマの有害性のレベルと出没したゾーンに応じてヒグマに対する方針を決定しており、問題個体となるヒグマについては捕獲も含めて対応を行っています。</p> <p>2022年(令和4年)6月に実施した「令和4年度第1回市民意識調査」では、ヒグマが出没した場所ごとに、取るべき対策について調査を行いました。ヒグマの出没状況や社会情勢の変化により、市民の意識の変化が予想されるため、今後も定期的に調査を行う予定です。</p>
3	<p>○札幌市には、森林エリアと隣接している住宅地が多数あり、結果的にヒグマ被害につながっていることを考慮すると「春グマ駆除」の再開による頭数制限を抜本的対策として組み入れるべきである。レッドリストに載ったとはいえ、これだけ出没被害が発生していることは、頭数制限対策を避けるべきではない。</p> <p>[類似意見：4件]</p>	<p>●ヒグマの行動圏は広いため、札幌市など市町村単位ではなく、地域個体群(積丹・恵庭)として個体数を管理していく必要があると考えています。</p> <p>そのため、ヒグマの個体数管理の考え方については、北海道の方針に基づき対応していますが、札幌市としても、市民の安全・安心のため、ヒグマの分布域などの動向を注視しているところです。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
4	○道の掲げる新たな「春グマ駆除」についての記載が見当たらないが、それに対する市の方針を知りたい。	●北海道が2023年（令和5年）2月に開始した「人里出没抑制等のための春期管理捕獲事業」は、ヒグマに対して人への警戒心をもたせ、人里への出没を抑制するとともに、ヒグマ対策に必要な人材を育成し、地域の危機管理体制の充実を図ることを目的としており、札幌市でも同事業に参加する形で実施しています。
5	○ヒグマの個体数について、シカの増加により食べ物が減少していることや、子育て中のメスがオスを避けた結果、奥山から市街地付近に生息域が移動し、目撃件数が増えたことで、個体数自体が増加したと誤認している可能性はないか。	●北海道の個体数推定において、札幌市を含む積丹・恵庭地域個体群のヒグマの個体数は、増加傾向にあることが示されています。また、札幌市が2020年度に実施した生息状況調査でも、市街地近郊の森林に生息するヒグマの識別個体数が増加していることが分かっています。一方で、奥山に生息するヒグマの生息状況は、これまであまり分かっていないことから、森林ゾーンにおけるヒグマ個体数の動向を把握するなど、今後も最新の情報を収集していきます。
6	○とても良い目標だと感じる。予算などの関係もあるだろうが、絵に描いた餅にならぬよう民間企業や市民を巻き込んで実行される事を願う。色々な対策をしてまでヒグマとの共存を目指す事に対して、豊かな自然があるのはヒグマが森を育んでいるおかげであることを市民に伝えていくべきだ。	●本計画策定後に、計画の進行管理と取組実践のため、協議体を設置し、様々な立場から、本計画の方向性に沿ったヒグマ対策を協議していきたいと考えています。

No.	意見の概要	市の考え方
7	○第3章以降がメインなので、第1章と第2章の一部を巻末参考資料としてはどうか。	●近年のヒグマの出没状況や札幌市のこれまでの取組・課題等について、市民の皆さまに知っていただくことも本計画の趣旨の一つであるため、本書の中で第1章と第2章の内容を記載しています。

【第1章 計画の策定にあたって】

No.	意見の概要	市の考え方
8	○札幌市は、森林と住宅地が接する境界線が長く続き、そうした場所に位置する果樹園や放棄果樹、菜園の管理・指導を積極的に行うことは、ヒグマ対策において有効と考える。しかし、そういった場所にヒグマが好む植物が豊富に生育する特性について言及がない。電気柵の設置等の対策も大変重要ではあるが、ヒグマが市街地と森林の境界に出没しやすい構図を認識しておくことも重要と考える。	●市街地と森林が接している地域でのヒグマ対策の重要性は、札幌市も認識しているところです。これらの地域が、植生を含め、そもそもヒグマの出没しやすい環境であることも考慮したうえで、どのような対策が必要か、有識者の意見を聞きながら検討していきます。
9	○他の政策等との連携は非常に重要である。自治体だけではなく市民運動や民間団体との連携も視野に入れてみてはどうか。	●ヒグマ対策を進めるうえで、様々な団体等との連携を進めていくことは大変重要であると認識しています。 市民運動や民間団体との連携については、第7章に記載してあるとおり、主体同士が相互に連携し協力できる関係を築いていきたいと考えています。

No.	意見の概要	市の考え方
10	○札幌市のまちづくり計画にヒグマ対策がきちんと盛り込まれるよう希望する。	●本計画は、札幌市のまちづくりに関する最上位計画である「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」に沿って策定する個別計画の一つとして位置づけており、他の個別計画と整合・連携を図りながら対策を進めていきたいと考えています。
11	○ヒグマ基本計画の改定が、他の個別計画にどのような影響があるのか。多少は生物多様性の保全を犠牲にする場面もあると予想されるが、長期的な視点をもって、合理的な比較衡量を期待したい。 [類似意見：1件]	●本計画では、生物多様性の保全のための基本指針である「生物多様性さっぽろビジョン」をはじめとした他の計画との整合性を図りながら、対策を進めていきます。 ヒグマ対策を実施するにあたっては、その地域に生息する動植物への影響も考慮しながら、どのような対策が有用か、引き続き有識者の意見を聞きながら検討していきます。
12	○科学に基づいた生息数が示されていない中で、「ゾーニング」の概念を持ち出すのは、話が飛躍しているのではないか。	●計画改定にあたっては、北海道立総合研究機構をはじめとした研究機関や大学等の有識者から、最新の研究内容を踏まえた観点で意見をいただいています。 ゾーニングについては、環境省の「特定鳥獣保護・管理計画作成のためのガイドライン（クマ類編）改訂版」を参考にしながら検討・協議したものです。 今後も最新の知見や有識者からの意見を積極的に取り入れながら対策を講じていきます。

【第2章 ヒグマに関する現状と課題】

No.	意見の概要	市の考え方
13	<p>○図9（生息状況調査の実施地点とヒグマ確認結果）について、調査地点は、2015年度と2020年度で同じなのか。点線で囲まれている分布拡大エリア（南側）は、2015年度に調査していなかっただけで、本質は市街地周辺でのヒグマ確認が増えたことではないか。</p>	<p>●2020年度の生息状況調査の調査地点は、2015年度のものとは若干異なることから、結果の単純比較はできません。ただし、同じ調査地点の中でも、2020年度に新たにヒグマが確認された地点が複数あることから、分布域は拡大しているものと認識しています。また、市街地周辺におけるヒグマの識別個体数の増加に加え、市街地近郊の森林に複数のメスのヒグマが定着していることも確認しています。</p>
14	<p>○ボランティアによる河川敷の草刈りも有効で、今後も続けてほしいと思う。また、札幌市でも草刈りの予算を拡充し、草刈りが必要な場所全てを有効に実施するよう求める。</p>	<p>●ヒグマ対策の観点で、河川の草刈りを全て公費で賄うことは現実的ではないと考えています（維持管理のための草刈りは、それぞれの河川を所管する国、北海道、札幌市で行っています。）。市民協働での草刈りでは、ヒグマの生態や対策、最近の出没情報を参加者に説明することで、ヒグマ対策の啓発も兼ねていることから、今後も実施地区を広げたいと考えています。</p>

【第4章 ゾーニング管理】

No.	意見の概要	市の考え方
15	<p>○放棄果樹の伐採について、まず先に、土地所有者からの了承等は弁護士や司法書士に相談し、札幌市が直接造園業者に委託する糸口を探すべきではないか。初めからボランティアありきの話では、市民の命を守る行政として弱い対策だと感じる。</p>	<p>●放棄果樹の伐採については、本来、土地所有者の手で伐採されることが望ましいのですが、労力などの理由で実施が難しい場合も多くあることから、現在はボランティアの方々の協力を得ながら活動を行っています。</p> <p>市と市民が協働でヒグマ対策に取り組むことは、参加する市民の方々にヒグマの出没を自分の身近な問題として捉えていただく良い機会であると認識しています。</p>
16	<p>○概念図ではない、明確なゾーニングマップの公表を強く希望する。ヒグマについて考え行動する市民の意識を醸成するのであれば、自身がどのゾーンに属し、どのように対策すればよいのかを明確に示すべきである。また、詳細なゾーニングについて、地域での出没状況や地域住民との協議をもとに都度判断していくとあるが、具体的にはどのような場を想定しているか。</p> <p style="text-align: right;">[類似意見：3件]</p>	<p>●ゾーニングについては、今後の出没状況や最新の調査研究結果等も踏まえながら、必要に応じ見直しを図っていく予定です。それぞれの地域における詳細なゾーニングについても、地域の実情や土地利用状況などを考慮する必要があるため、今後、過去のヒグマ出没事例の分析や地域住民との協議等を通じ、検討を進めていきます。</p> <p>協議の場としては、町内会向けの座談会のほか、地域住民を対象としたワークショップなどを想定していますが、具体的な手法については今後検討を進めていきます。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
17	<p>○地域版のヒグマ管理計画においては、災害ハザードマップと同様に、ヒグマの被害が想定されやすい場所を図化する取組が求められる。</p> <p>札幌市で蓄積してきたヒグマ出没情報の記録や各種空間情報、ヒグマの習性を加味し、ポテンシャル分析を行うことで、ヒグマハザードマップを作ることが可能である。また、ヒグマの出没や被害発生を確率分布図にすることも可能である。</p> <p>ハザードマップ化することにより、限られた人的資源や予算を効率的に対策に活かせることに加え、市民への啓発が具体的になること、新たな気づきが期待されるため、次回以降の改定時に検討してほしい。</p>	<p>●まずは、本計画の内容に基づいた取組を進めていきますが、取組を進めていくなかで、より効率的なヒグマ対策についても、引き続き検討を進めていきます。</p>
18	<p>○市街地周辺ゾーンの考え方（ヒグマの侵入をできるだけ抑制する）について、最終的な数値目標を示すべきではないか。基本目標1で掲げる成果指標「ヒグマによる農業被害、家庭菜園被害等の件数をなくす」が該当する目標だとすれば、「できるだけ」は不要ではないか。</p>	<p>●市街地周辺ゾーンについては、森林ゾーンに接しており、ヒグマの侵入自体を完全に防ぐことは難しい地域です。そのため、当該ゾーンでは、電気柵の設置や放棄果樹伐採などのヒグマを寄せ付けない対策を行い、ヒグマの侵入をできるだけ抑制したうえで、ヒグマによる農業被害、家庭菜園被害等をなくすことを目指し、成果指標としています。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
19	<p>○市街地ゾーンと市街地周辺ゾーンについて、ビジョンの達成に向けてゾーンごとの対策が必要であることは理解できるが、現在札幌市内では、市街地周辺ゾーンの対策が不十分であることが問題視されているのではないか。この先新設される都市近郊林ゾーンの有効性は理解できるが、市街地周辺ゾーンで起きている対策を強化しておかなければ、市街地ゾーンに被害が及ぶことにも繋がるため、人の居住区は同一の対策が必要とするべきである。</p> <p>[類似意見：1件]</p>	<p>●市街地周辺ゾーンにおいても、人が生活するエリアでのヒグマ対応は市街地ゾーンに準じることとしています。一方で、市街地周辺ゾーンには、農地や家庭菜園なども多くあり、ヒグマの誘引物対策をより進めていくべき地域であることから、必要な対策を強化していきます。</p>
20	<p>○都市近郊林ゾーンの新設により、駆除のハードルを下げているように感じる。むやみやたらと駆除するのではなく、これまで以上に対策を強化したうえで、やむを得ない場合の選択肢として駆除があることを望んでいる。</p>	<p>●札幌市では、人とヒグマのすみ分けにより、市民の安全・安心な暮らしを目指すため、人の生活圏へのヒグマの侵入抑制策をこれまで以上に進めていくこととしています。同時に、出沒したヒグマの「有害性のレベル」と「出沒したゾーン」に応じてヒグマに対する方針を決め、問題個体となるヒグマについては捕獲も含めた対応を行っていくこととしています。</p>

【第5章 基本目標と施策の方向性】

No.	意見の概要	市の考え方
21	○放棄果樹伐採活動は、「ヒグマの誘引物対策」に分類するのが適切ではないか。	●ヒグマ対策は、複数の目的で実施しているものが多くあり、放棄果樹伐採については、ご指摘のとおり、誘引物対策の側面もあるものと認識しています。本計画においては、放棄果樹伐採は、樹木を伐採するという観点で便宜上「緑地管理」に分類しています。
22	○電気柵やごみの管理などの対策について、強制力を持って実施させることを検討しないのか。	●市民・事業者への規制等については、様々な観点からの議論、社会的な合意形成が必要と考えています。
23	○市が実施する普及促進の効果について、複合的な要素が影響する「農業被害、家庭菜園被害等の件数」ではなく「電気柵の設置戸数割合」等を指標としてはどうか。	●現時点では、ヒグマ被害防止のために電気柵設置が必要と考えられる家庭菜園の全体数が不明であることから、本計画の数値目標とすることは難しいと考えています。 電気柵の普及は、本計画でも施策の方向性の一つとして掲げており、電気柵に関する具体的な指標については、計画策定後、成果指標を達成するために掲げる活動指標として検討すべき事項であると認識しています。

No.	意見の概要	市の考え方
24	<p>○ヒグマを人里に出でこないようにする対策に注力することが、持続可能かつ効果的で人道倫理にもかなう方法かと思う。遠軽町丸瀬布の対策エリアでは、ベアドッグの活動により人里に降りてくるヒグマはゼロであると聞いた。ベアドッグはクマの教育を行える手法であるので対策の主軸に据えてはどうか。</p> <p>[類似意見：4件]</p>	<p>●本計画では、侵入抑制策を基本目標の一つとしていますが、対策を進めていくうえでは、草刈りや放棄果樹伐採、電気柵の普及などさまざまな取組を並行して行っていくことが重要であると考えています。</p> <p>ベアドッグについては、クマの追い払いのほか、クマの移動経路の特定や付近にクマがいるか探知することによる現地調査時の安全確保など、様々な役割があるものと認識しています。札幌市としても、ベアドッグに関する情報収集を進めており、その有用性は理解しているところですが、他都市事例をそのまま適用することは難しいため、導入に向けては、有識者の意見等を踏まえ、札幌市の実情にあった活用方法を検討していきます。</p>
25	<p>○ICTを用いたカメラ等での監視は、どのゾーンで実施するのか。</p> <p>カメラ設置の目的は、市街地ゾーンに入った際にいち早く確認するためなのか、都市近郊林ゾーンや市街地周辺ゾーンで市街地出没を発生させそうな個体を把握するためなのか教えてほしい。</p>	<p>●自動撮影カメラは、主に市街地周辺ゾーン及び都市近郊林ゾーンの緑地や林道等に設置することを想定していますが、市街地ゾーンでも、ヒグマの移動経路となり得る河川敷や緑地等に設置することで、ヒグマの侵入をいち早く探知できるものと考えています。</p>
26	<p>○市民の草刈り活動に対し、札幌市は草刈り鎌や草刈り機等の提供を行うべきだ。また、今春からヤギ除草が開始される予定である。草刈り要員になるかもしれないので、ヒグマ対策の一つとして検討してほしい。</p>	<p>●他都市の事例等も参考に、効率的なヒグマ対策について検討を進めていきたいと考えています。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
27	○ヒグマ出没時の体制強化について、関係機関との協調により実現される施策であり、札幌市だけの取組事項にはならないと考える。	●ヒグマ出没時の対応については、北海道や警察、その他関係機関との連携や、報道機関等の協力などが欠かせないことから、札幌市は、現地対応や方針決定だけではなく、これら関係者の調整役を担い、適切な対応を目指していきます。また、ヒグマ出没時の対応方針についても、研究機関・大学等の有識者の意見を聞きながら方針を決定しているところであり、今後も引き続き正確で迅速な方針決定及び対策の実施に努めていきます。
28	○ヒグマ出没情報について、市民に正しく注意喚起できるように、目撃地点のゾーン名の記載と、周辺住民への電気柵の無料貸出など、とるべき具体的な対策を同時にアナウンスしてほしい。	●ヒグマ出没情報については、ホームページや SNS 等の媒体を活用しながら、迅速かつ的確に情報発信できるよう努めていきます。また、出没地点周辺での土地利用状況などを踏まえ、電気柵設置等の侵入抑制策に係る啓発を行っていきたいと考えています。
29	○出没情報の中で、ヒグマかどうかかわからない情報（ヒグマらしき情報）が発生しかねないと思う。そのような情報も含んだ出没情報を提供すると市民の不安を過大にあおることに繋がりがねないと思うが、ヒグマらしき情報に対してどう対処していく（もしくはどう伝達していく）のか。	●札幌市では、市街地でヒグマの目撃情報が寄せられた際、速報として情報を発信していますが、その後の現地調査の結果、明らかな誤報と思われる場合には、その旨を再度続報として発信しています。 迅速かつ的確な情報発信のあり方については、引き続き検討していきます。

No.	意見の概要	市の考え方
30	○市民による通報について、積極的に市民からの情報を収集し、活用する仕組みを作ってほしい。長期的には、自然系の市民団体や関心を持つ層をいかに取り込めるかが重要であると考える。	●ヒグマ出没情報については、ホームページや SNS 等の媒体を活用しながら、迅速かつ的確な情報発信を行っています。今後も引き続き、より利用しやすく、わかりやすい情報の発信に努めていきます。
31	○基本目標 2 の成果指標として、「人身事故件数を 2026 年度までの毎年度ゼロにする」ことが掲げられているが、成果指標は、札幌市としてコントロールできるものに限っておくのがよいと考える。「結果として人身事故件数ゼロになるように、市民とともに努めていく」ということであれば問題ないと思う。	●ご指摘いただいた視点を含め、本計画策定後、札幌市の具体的な取組の効果や実効性を評価するための指標として、それぞれの施策に沿った活動指標を設け、達成度の評価及び見直しを図っていく予定です。
32	○小学生に対し、ヒグマ教室を開き、交通安全教室で「ヒグマに出遭っても背中をむけて走って逃げない」ことを伝えることが大切である。	●これまでも札幌市では、小中学生や高校生を対象にしたヒグマ講座を行い、ヒグマの生態のほか、山でヒグマに出遭わないための方法を紹介しています。ヒグマの正しい知識を周知していくことは、大変重要なことであるため、庁内や北海道とも協議を行いながら、普及啓発を強化していきます。
33	○都市近郊林ゾーンを頻回に利用される登山利用者などには、生物多様性の重要性やヒグマの正しい知識を理解してもらいたい。	●今後、都市近郊林ゾーン及びヒグマ対策重点エリアにおいて、登山利用者などへの普及啓発を強化していきます。

No.	意見の概要	市の考え方
34	○ヒグマ対策に興味ที่薄い市民にとっては、ヒグマのことを自分事として意識し、理解することは難しいと感じた。市民が主体的に取り組むとは、自分の行動に責任を持つことであり、そのためには、ある程度の明確化した基準が必要ではないか。	●本計画では、市民の意識醸成を基本目標の一つとしており、ヒグマを市街地に寄せ付けないために、市民がどのような対策を行う必要があるか、積極的に啓発を行っていきます。
35	○市街地周辺ゾーン及び都市近郊林ゾーンでは、観光事業者やアウトドア商品製造販売事業者がヒグマ対策費用を抛出するのが良いと思う。	●管理者等向けの研修を行い、管理者等が自らヒグマ対策を実践する機運を高めるとともに、管理者等が行うヒグマ対策を支援する仕組みについても検討していきます。

【第6章 計画全体に係る施策】

No.	意見の概要	市の考え方
36	○登山道と林道整備を除くヒグマが生息する森林ゾーンでは、税金を使った森林整備等の対策は行わない方が良い。(もしするのであれば林業振興など別の目的が必要であると考える。) 広葉樹の植林などは環境関連NPOが主体となり寄付を募って事業化する分野であると考える。 [類似意見：1件]	●森林ゾーンでの森林整備等については、土地を所有する国や北海道などが、どのような対策を進めるか検討していくものと考えています。札幌市は、それぞれの機関に対し、ヒグマ対策を働きかけていくほか、必要に応じて対策に協力していきたいと考えています。
37	○報道機関の偏った知識による報道のあり方や、取材時のヒグマへの対応(追い回すなど)により、事態を悪化させることがないよう、市から報道機関に対し、毅然とした態度で指導してほしい。 [類似意見：2件]	●報道機関に対しては、ヒグマへの正しい知識を身につけたうえで、引き続き市民への情報発信という点で重要な役割を担っていただきたいと考えているため、今後、報道機関向けの勉強会などの取組を検討していきます。

No.	意見の概要	市の考え方
38	○住宅地近郊のヒグマ対策重点エリア（三角山など）でも、そこに立ち入る人が、ヒグマのいる場所である認識をもって行動するべきである。	●三角山、藻岩山及びその周辺の山を含む地域は、人の利用も多く、人とヒグマの距離が非常に近い地域であることから、ヒグマ対策重点エリアとして設定しています。当該エリアでは、普及啓発も含めた対策を重点的に実施していく予定です。
39	○ヒグマの出没に備えて、近隣自治体間での連絡体制を構築し、平時からの情報共有、生息状況調査などを行うことは重要だと思う。併せて、ヒグマが健全に生きていけるための生息域の確保に関する近隣間での連携も進めてほしい。	●さっぽろ連携中枢都市圏の枠組みの中で、出没情報の共有や具体的対策について連携を強化していきたいと考えています。
40	○札幌市が広域連携の一環として、江別市で小学校ヒグマ講座を実施したことは大変素晴らしいことだが、本来このような事業は石狩振興局（北海道）が実施すべきである。	●近隣自治体との連携においては、石狩振興局とさっぽろ連携中枢都市圏で、それぞれの強みがあるものと考えています。どちらの枠組みでどのような取組を行うのか、北海道とも連携を図りながら検討を進めていきます。
41	○札幌市ではほぼ無いかと思うが、近隣市町村の中には、未だにごみの回収が無い地域がある。そのような地域だと、野生動物も出没し放題となるうえ、周辺にこのような「穴」があれば札幌だけが頑張っても残念ながら限界があると言わざるを得ない。	●さっぽろ連携中枢都市圏において、市町村をまたいだ生息状況の調査や侵入抑制策、普及啓発等を進めることで、圏域全体におけるヒグマ対策水準の底上げや住民の意識醸成を図っていきます。

【第7章 計画の推進にあたって】

No.	意見の概要	市の考え方
42	○農家への補助額がかなり不足しているように感じるので、有害鳥獣対策の補助額をもっと潤沢にしてほしい。	●有害鳥獣対策の補助等、農家へのヒグマ対策のサポート充実化については、農業協同組合等とも連携しながら検討を進めていきます。
43	○発砲禁止区域や夜間などの警察官職務執行法による対処が必要な場合の運用について、整理した方が良い。 [類似意見：1件]	●過去の事例等も踏まえ北海道や警察と協議・検討を進めていきます。

【参考資料】

No.	意見の概要	市の考え方
44	○札幌市内における痕跡、出没データなどについても、可能な限り、資料編などとして公開しておく、市民にとってより理解が深まると思う。	●過去のヒグマ出没状況や生息状況調査の結果等については、札幌市公式ホームページに掲載しています。今後、より分かりやすい情報発信の手法について検討していきます。
45	○さっぽろヒグマ基本計画改定検討委員会のメンバーについて、男女比率の公平性を求める。	●検討にあたり必要とされる知識や委員会の公平性・中立性を踏まえ、メンバーを選定していきたいと考えています。

【その他】

No.	意見の概要	市の考え方
46	○過去の重大な出没事故・事案について、札幌市として事故報告書の作成、公開の予定はあるか。本計画への掲載を求めるものではないが、今後の事故再発防止のためにも、当時の状況や今後の対策について、公開されることが望ましいと考える。	●ご意見については、これからの取組の参考にさせていただきます。

No.	意見の概要	市の考え方
47	○管理されずに放置されたままの空き家・空き地等の対策について、現地の状況確認や土地所有者への整備申し入れなどを行ってほしい。	●ご意見については、これからの取組の参考にさせていただきます。
48	○熊よけスプレーが高いので、市から補助をお願いしたい。	●ご意見については、これからの取組の参考にさせていただきます。
49	○ヒグマ講座の講師をやってみたいが、講師になるにはどうしたら良いか。札幌市環境教育リーダー制度に組み込んでも良いのでは思う。	●ヒグマ講座については、実施数の拡大など、更なる充実化に向けた検討を進めていきます。現在、ヒグマ講座の講師役は、ヒグマ出没時の現地調査等の業務を委託している野生動物専門の事業者及び熊対策調整担当係の職員が担っていますが、講師役を担う新たな人材の確保についても、今後検討していきます。

5 キッズコメント（小・中学生の意見）の概要とそれに対する札幌市の考え方

小学生・中学生のみなさんからいただいたご意見と市の考え方をお示しします。今後の札幌市のヒグマ対策に関する施策及び取組の検討・実施にあたり参考とさせていただきます。

ご意見は、内容をもとに、計画の構成に沿った分類で掲載しています。

なお、趣旨が同様のご意見については、集約したうえで掲載しています。

【計画全体】

No.	意見の概要	市の考え方
1	○とても良い計画だと思う。ヒグマや他の動物と共存できる世の中になることを願っている。この計画を読むと、ヒグマのことを知り、生活や過ごし方を考え直していくきっかけになると思った。 [類似意見：2件]	●市民の安全・安心を確保しながら、人とヒグマとの共生を目指していくためにどんなことができるか、みなさんと一緒に考えながら取り組んでいきたいと思います。

【第5章 基本目標と施策の方向性】

No.	意見の概要	市の考え方
2	○「ヒグマが市街地に来るのを防ぐ」のではなく、「森にヒグマが住みやすい環境を作る」ことに重点をおくと良いと思う。ヒグマが街に出没する原因は、食べ物がないことが主だと思うので、森にヒグマの食べ物となる木を植えたり、森に入る人数を制限するのが良いのではないかと。 [類似意見：2件]	●すみ分けによる安全・安心な暮らしを目指し、引き続き計画を進めていきながら、より効率的なヒグマ対策について検討を進めていきます。

No.	意見の概要	市の考え方
3	<p>○ごみを捨てると、ヒグマにどのような悪影響があるかを伝えるのがよいと思う。法律などで規制するのではなく、ごみを捨てないことが、結果としてヒグマの命を守ることに繋がることが理解させることが大切である。</p> <p>[類似意見：1件]</p>	<p>●ごみなどがヒグマを誘引する可能性があり、対策を行う必要があることを引き続き周知するとともに、効果的なヒグマ対策を普及させたいと考えています。</p>
4	<p>○ごみ拾いにスポーツの要素を加え、楽しくごみ拾いをして、ヒグマのことを知ってもらうのはどうか。</p>	<p>●より多くの市民にヒグマ対策に参加していただけるよう、今後様々な取組を検討していきます。</p>
5	<p>○ヒグマ対策用ごみ保管箱を札幌市の助成金で公園などに設置してほしい。</p>	<p>●公園管理者等自らがヒグマ対策を実践するよう働きかけるとともに、管理者等のヒグマ対策を支援する仕組みを構築していきたいと考えています。</p>
6	<p>○ヒグマ対策として、市民にくま鈴を配布してほしい。</p>	<p>●札幌市では、登山などでヒグマの生息地に入る市民を対象に、くま鈴の貸出を行っています。詳しくは、環境局環境共生担当課又は最寄りの区役所までご連絡ください。</p>
7	<p>○ヒグマが侵入しそうな場所や、侵入してほしくない場所に、通ったら音が鳴る装置を置くことで、ヒグマの侵入を防ぐことができるのではないか。</p>	<p>●ヒグマ対策の最新技術や知見の情報収集を行い、効果を検証したうえで導入を検討していきます。</p>
8	<p>○電気柵の普及促進について、ポスターなどでの注意喚起のほか、ヒグマ出没エリアでの電気柵購入補助金を増額すると住民も設置しやすいと思う。</p>	<p>●電気柵普及事業を推進するとともに、電気柵設置講習会を開催するなど、更なる電気柵の普及促進に努めていきます。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
9	○草刈りについて、人とヒグマの両方を考えた取組だと感じた。また子供でも参加できる取組なのでとても良いと思う。	●市民の安全・安心を確保しながら、人とヒグマとの共生を目指していくためにどんなことができるか、みなさんと一緒に考えながら取り組んでいきたいとします。
10	○草刈りについて、学校の行事にすると沢山の子供が参加できて良いと思う。	●草刈り活動は、これまでも地元町内会や学生、ボランティア団体などと協働する形で行っており、最近は学生が自ら企画し主催する草刈りイベントが行われるなど自主的な活動も行われています。 これからも、小中学生や高校生を対象にしたヒグマ講座等を通じて、ヒグマ対策への草刈り活動の効果等を周知していきたいと考えています。
11	○区ごとにヒグマ出没時の訓練を行い、地域で考えたら良いと思う。	●ヒグマが市街地に出没した場合を想定した訓練等を行い、関係機関を含めた体制整備や情報共有に努めていきたいと考えていきます。
12	○ヒグマ対策への貢献に目標を設定し、達成すると商品券がもらえるなど、メリットを札幌市が提供するのはいかがでしょうか。	●管理者が実践するヒグマ対策を支援するとともに、市民や札幌市への来訪者等が安心してサービスを利用できる仕組みを構築していきたいと考えています。

さっぽろヒグマ基本計画 2023

パブリックコメント・キッズコメント意見集

札幌市環境局環境都市推進部環境共生担当課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

電話：011-211-2879 FAX：011-218-5108